

2010 年度

高1ファーストステップ
基礎学力チェックテスト
英語 <解答・解説>



1

【解答】(問1～問4は各4点、問5は各2点、問6は3点×2)

問1	has been in Kyoto for six months		
問2	the boy sitting next to her <u>was</u> reading		
問3	is a high school student <u>who (that)</u> lives near the library		
問4	showed her how <u>to</u> cook Japanese dishes		
問5	(A)	1	(B) 1
問6	4と5		

*問1～問4の下線部は、加えた語を示す。

【全訳】ナンシーはカナダ出身の大学生です。彼女は京都に来て6ヶ月になりますが、日本文学を勉強しています。時々、彼女は公共図書館に行きます。ある日、彼女が図書館で本を読んでいると、隣にすわっている少年がカナダに関する本を読んでいるのに気がつきました。彼女は彼と話をしたかったので、彼に話しかけました。少年は図書館の近くに住んでいる高校生であることがわかりました。彼の名前は一郎です。彼らは、図書館を出たあと、自分たちの国について大いに語り合いました。一郎はカナダに行ったことはありませんが、カナダについてもっと知識を得ることに関心を抱いていました。話をしながら、ナンシーと一郎は互いの国について新しいことを知りました。彼らはすぐに親しくなりました。

ある日の午後、ナンシーは一郎の父親の店に野菜を買いに行きました。店は混雑していました。一郎は、父親の手伝いをしていました。彼はとても忙しそうだったので、ナンシーはそのまま店にいて、彼らの手伝いをしました。彼らは彼女が手伝ってくれたのに感謝し、その夜食事に彼女を招待しました。食事のあと、一郎の父親は、ナンシーにお寺や神社の写真を沢山見せてくれました。彼の趣味は、京都や奈良にある美しい古い建物や庭園の写真を撮ることです。彼は、彼女にこの二つの古い都市について話をしてくれました。

数週間後、ナンシーは再び一郎の家に行きました。一郎の母親は、彼女に日本料理の作り方を教えてくれました。二人は、おでんや肉じゃが、天ぷらを作りました。こうしたものは、ほとんどの日本人の好きなもので、ナンシーも大好きです。

【解説】

問1 「…に来て半年（6ヶ月）になる」は、"have been＋場所＋for six months" を用いる（「継続」の現在完了形）。

問2 「彼女のとなりにすわっている少年」は、the boy の後に sitting next to her を加える（現在分詞による後置修飾）。the sitting boy next to her としないように注意。

問3 「図書館の近くに住んでいる高校生」は、a high school student の後に who（または that）lives near the library を加える。この「語のかたまり」（「節」と言う）については、A high school student lives near the library. という文をもとにして、A high school student を who または that に変える。「もともとなる文」を関係代名詞で始まる節（もとの文の中にある名詞を説明する節）にするやり方については、説明される名詞（「先行詞」と言う）が「人間」で、しかも、もとの文の中で「主語」になっている場合には、この名詞を who（または that）に換える。（例）A man can do the work. 「ある男の人は、その仕事ができる」→ a man *who can do the work* 「その仕事ができる男の人」

問4 「日本料理の作り方」は how to の後に cook Japanese dishes を続ける。「彼女に…を教えた」は、showed her … とする。show の後、「（人）に」「…を」の順序で並べる。

問5 (A) "leave＋目的語（＝場所）" は「…を立ち去る；…から出発する」の意味。"leave for …" は「…に向かって（それまでいたところを）出発する」の意味。ここは、二人が図書館で出会った後のことだから、前者を選択する。

(B) 「…（の状態）に見える」は、"look＋形容詞" を用いる。

問6 1 「一郎は、市立図書館で Nancy に話しかけた」話しかけたのは、一郎ではなく、Nancy である。（第1パラグラフ：She wanted to talk with him, so she spoke to him.）

2 「Nancy は、一郎の父親の店に果物を買に行った」Nancy が買に行ったのは果物ではなく、野菜である。（第2パラグラフ：Nancy went to Ichiro's father's shop to buy some *vegetables*.）

3 「一郎の父親は絵を描いて、何枚かを Nancy に見せた」一郎の父親が Nancy に見せたのは、絵ではなく写真である。第2パラグラフに、Ichiro's father showed Nancy a lot of *pictures* of temples and shrines とあるが、直後に His hobby is *taking pictures* of beautiful old buildings and gardens in Kyoto and Nara とあるので、ここでの *pictures* の意味は、「写真」である。選択肢は、Ichiro's father *painted pictures* とあり、*pictures* を「絵」の意味で使っている。

4 「一郎の父親は、京都や奈良の古い建物に興味を持っている」**3** の解説で引用した箇所を参照のこと。「寺や神社の写真を見せる」「京都や奈良の古い美しい建物や庭園の写真を撮る」といった内容から、「京都・奈良の古い建物に興味がある」と言える。

5 「肉じゃがは、Nancy が食べるのが好きな料理の一つだ」 第3パラグラフの最終文 (They made *oden, nikujaga* and *tempura*. These are dishes that most Japanese people like, and *Nancy likes them very much*.) の内容と一致。

2

【解答】 (各2点)

(1)	3	(2)	2	(3)	1	(4)	4
(5)	2	(6)	3	(7)	2	(8)	3
(9)	4	(10)	2	(11)	4	(12)	1
(13)	1						

【解説】

(1) 「誰が昨日その本を買ったのですか」

主語 (人) を尋ねる疑問文では、もともになる肯定文の主語を *who* に変える。すなわち、(もともになる肯定文) *John bought that book yesterday*. → (主語を尋ねる疑問文) *Who bought that book yesterday?* と考える。なお、主語以外を尋ねる疑問文の場合には、*who / what* などの後は「疑問文の形」にしなければならない。(例) *Who is that boy?* / *What does she have?*

(2) 「私は、Jane に手紙を書いたところです」

"*have just*+過去分詞"で「たった今…したところだ」の意味(「完了」を表す現在完了形)になる。また、*finish* の後には、*to* 不定詞ではなく動名詞(*-ing*)を用いる。

(3) 「私は、彼にその手紙を郵便局まで持って行ってほしいと思う」

"*want*+…(人)+ *to* 不定詞"で「…に～してほしいと思う」の意味。

(4) 「2, 3年前、とても人なつっこい犬が町に来た。その犬は、Jack と呼ばれた」

「私たちは、それ(犬)を *Jack* と呼んだ」は、*We called it Jack*. である。これを、*it* を主語にした受け身の形にすると、*It was called Jack*. となる。

(5) *a book* の後に「君の役に立つだろう」という意味の節を続ける。この節は、*A book will help you*. という文をもとにして、先行詞になる *a book* を *that* ないし *which* にする。すなわち、(もともになる文) *A book will help you*. → 「君の役に立つだろう本」*a book that (which) will help you* と考える。先行詞が「人間以外」で、もともになる文の中で主語になっている場合は、関係代名詞の節の中ではこれを *which* ないし *that* に変える。

(6) 「私たちは、彼が亡くなったことを聞いて驚いた」

「驚く」は、"*be* 動詞+*surprised*"を用いる。動詞の *surprise* は「(人を)驚かせる」の意味だから、「驚く」の意味にする場合には、受け身の形(驚かされる → 驚く)を用いる。

(7) 「私は、温かい飲み物がほしい」

「何か暖かいもの」は **something hot** で、「何か飲むもの」は **something to drink** である。「何か暖かい飲み物」の場合には、**something hot** の後に **to drink** を続ける。

(8) 「彼が10年前にどこに住んでいたかわからない」

I don't know の後に続くから、間接疑問文になる。疑問詞の **when** の後は、平叙文と同じ形になる。(直接疑問文) **Where did he live?** → (間接疑問文) **I don't know where he lived.** のように考える。なお、**ten years ago** があるので、**live** は過去形になる(「今」ではなく、「10年前」に住んでいた場所を尋ねている)。

(9) 「16才の少年は、背丈が父親と同じぐらいになることが多い」

「…と同じ背の高さだ」は、**as tall as** … を用いる。

(10) 「列車の中で読む雑誌がほしい」

「(これから)読む雑誌」は、不定詞(形容詞的用法)を用いて **a magazine to read** となる。なお、関係代名詞を用いる場合は、**a magazine which (that) I will read** となる(選択肢3は、**it** が余分である)。

(11) 「これは誰の帽子ですか」「兄(弟)の帽子です」

答えの文が「それは、私の兄(弟)のもので」とあるので、問いの文は、「それ(=帽子)」の持ち主を尋ねる文ということになる。「…は、誰の～ですか」は、"**Whose** ~" を文頭に置き、その後に「疑問文の語順」、すなわち "**be** 動詞 + 主語" の形を続ける。

(12) 「彼らは80年前に建てられた家に住んでいる」

「80年前に建てられた家」は、**a house** の後に **built eighty years ago** を続ける(過去分詞による後置修飾)。「家が(何かを)建てている」ではなく「家が建てられた」であるから、現在分詞(-ing)ではなく過去分詞を用いる。なお、関係代名詞を用いる場合は、**a house which (that) was built eighty years ago** になる。

(13) 「昨夜とても疲れていたのに、いつもより早く床についた」

「いつもより早い(遅い)時間に」は、**earlier (later) than usual** である。「昨夜、私は疲れていた。だから、() 床についた」という内容から、**earlier than usual** を選択する。

3

【解答】(各3点=(a)(b)両方正解で3点)

(1)	(a) have または need	(b) to
(2)	(a) ever	(b) listened
(3)	(a) the	(b) highest
(4)	(a) How	(b) long
(5)	(a) more	(b) than
(6)	(a) are	(b) spoken
(7)	(a) made	(b) them
(8)	(a) enjoyed	(b) playing

【解説】

- (1) 「…する必要がある」は、have to ないし need to を用いる。なお、「(私は) …でないと思う」という内容を表す場合、think のほうを否定の形にして、I don't think [that] … とすることが多い。(例) I *don't think* he will come. 「彼は来ないと思う」
- (2) 「君は今までに…したことがありますか」は、"Have you ever+過去分詞?" を用いる(「経験」を表す現在完了形)。「聞く」は、the music の前に to があることから、hear ではなく listen to を用いる。
- (3) 「一番高い(山)」は、the の後に high の最上級 highest を用いる。
- (4) 答えの文が「10年間です」だから、問いの文は「どれくらいの間(どれくらい前から)ピアノを弾いていたか」を尋ねる文になる。「(あなたは)どれくらい前から…していたか」は、"How long have you+過去分詞?" を用いる。なお、中学校の学習範囲ではないが、このような場合、How long *have you been playing* the piano? のように言うことも多い(現在完了進行形)。
- (5) 「…より人気がある」は、popular の比較級に than … を続ける。popular の比較級は、more popular で、popularer ではない。
- (6) English and French が主語になるので、受け身の形 "be 動詞+過去分詞" にする。
- (7) "make+目的語+形容詞" の形を用いて、「その知らせが彼らを幸せにした」の意味の文を作る。なお、"be happy+to 不定詞" は「…して幸せだ(うれしい)」の意味。
- (8) 「…することを楽しむ」は、"enjoy+動名詞(-ing)" を用いる。

4

【解答】(各3点=(a)(b)両方正解で3点)

(1)	(a) 4	(b) 6	(2)	(a) 5	(b) 2
(3)	(a) 4	(b) 2	(4)	(a) 8	(b) 1
(5)	(a) 5	(b) 4	(6)	(a) 7	(b) 4
(7)	(a) 5	(b) 4	(8)	(a) 6	(b) 8

【解説】

(1) *The teacher told the children to sit down quietly.*

「…(人)に～するように言う」は、"tell …+to 不定詞" を用いる。

(2) *It is difficult for him to speak English.*

「…(人)が～するのは難しい(易しい)」は、"It is difficult (easy) for ～+to 不定詞" を用いる。He is difficult to speak English としないこと。

(3) *Which do you like better, apples or oranges?*

「AとBのどちらが好きですか」は、Which do you like better, A or B? とする。

(4) *Is there a bookshop in front of the train station?*

「(どんな書店でもよいから) 駅前に書店がありますか」は、"There+be 動詞+主語+場所" の文を疑問文にして、Is there a bookshop in front of the train station? とする。この場合、「書店」は、特定の(ある決まった)書店のことを言っているわけではないので、bookshopにはtheではなくaをつける。なお、特定の書店について、「その書店は駅前にありますか」と言う時には、Is the bookshop in front of the station? という。

(5) *Why don't you try to write a poem in English?*

「…してはどうですか」は、Why don't you …? を用いる。「…することに挑戦する」は、"try+to 不定詞" を用いる。

(6) *I would like you to tell me the way to Ginkakuji.*

「…していただきたい」は、"I would like you+to 不定詞" を用いる。「私に…へ行く道を教える」は、tell me the way to … とする。

(7) *"When are you going to start your new job?" "Next week."*

答えの文が「来週です」だから、問いの文は「時」を尋ねる文、それも「未来の時」を尋ねる文と判断する。「いつ…するつもり(予定)ですか」は、be going to を用いれば When are you going to …? となり、will を用いれば When will you …? となるが、ここでは空所の数から前者を選ぶ。

(8) *I want to know who wrote this poem.*

「私は、…を知りたい」は、I want to … を用いる。「この詩を誰が書いたか」は、Who wrote this poem? 「誰がこの詩を書きましたか」という直接疑問文を間接疑問文にして who wrote this poem とする。この場合のように、主語を尋

ねる直接疑問文は、間接疑問文にしても形は変わらない。

【参考】 主語を尋ねる疑問文の場合：(直接疑問文) **Who broke it?** → (間接疑問文) **I don't know *who broke it.*** 主語以外の語句を尋ねる疑問文の場合：(直接疑問文) **What does she have in her hand?** → (間接疑問文) **I don't know *what she has in her hand.***